

後利用の方向性(素案)

“若々しさ・多様さ”への地域イメージの転換を図るため、
レガシーがもたらす“誇り・自信”と今後直面する変化に負けない“持続性”
を持った力強い“まち”の創出

【後利用の基本的な考え方】 “若々しさ・多様さ”への地域イメージの転換

住民の高齢化が進み、既存産業の新たな飛躍が求められる名古屋南西部を

- ① 若い世代の定住、新たなビジネス・交流の創出といった“若々しい活力あふれるまち”
 - ② 住宅機能だけでなく、生活・産業を取り巻く多機能な拠点を集積させることで、“多様な出会いとコミュニティが育まれるまち”
- へと変革を促す。

【後利用のあり方】

先導施設、住環境整備の複合的な開発による後利用の基本的なあり方を以下のように設定する。

＜先導施設＞ レガシーがもたらす“誇り・自信”の再発信

アジア競技大会選手村跡地への『誇り・自信につながる先導施設誘致』による開発を進める。

- ① 都市・交流 リニア開通とあわせ、集客系施設等の誘致を進め、新たな魅力形成に資する開発を進める。
- ② 産業・ビジネス 名古屋南西部の多様な産業集積を生かし、若者・女性・外国人が働きやすい環境の整備を進める。
- ③ 学び・スポーツ アジア競技大会選手村の施設を活かし、愛知・名古屋の新たなシンボル形成に寄与する開発を行う。

＜住環境整備＞ 今後直面する変化に負けない“持続性”の確保

今後予想される社会的な変化に対応できる持続性を備えた『質の高い住環境整備』を行う。

- ① アクティブ・多世代交流 誰もがいきいきと過ごせ、多世代が交流する住環境を創出し、地域活力の向上に貢献する。
- ② 子育て 子育て世代に選ばれる住宅を提供し、若年層を中心とした活力あふれる住環境を創出する。
- ③ やすらぎ 快適性、利便性、安心・安全、自然との調和を兼ね備えた高付加価値型の住環境を創出する。

【共通するコンセプト】 “力強いまち”の創出

後利用を支える共通開発コンセプトとして、施設計画の配慮・工夫を行うことで、『先導施設、住環境整備と一体となった“力強いまち”』を形成する。

- ① 官民連携による質の高い開発
- ② 複合的な開発による新たな市街地形成
- ③ 防災・減災拠点の形成
- ④ 優れた既存インフラの連携・活用
- ⑤ 環境に配慮した持続可能な開発

【後利用の概念図】

